

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立開成小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

平成29年4月18日(火)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

#### ■ 調査結果及び考察について

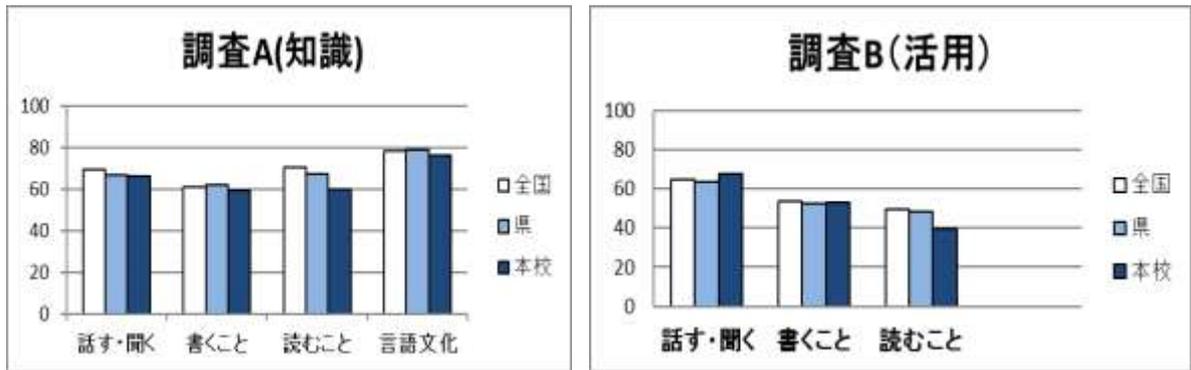
全国学力学習状況調査は小学6年生（中学3年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数（数学）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果

#### 全国・県正答率との比較



調査A(知識)全体についての本校正答率は、73%で、全国や県と比較すると2ポイント程度下回っている。領域別に見ると、調査Aでは、「話す・聞く」や「書くこと」、「言語文化」については、全国や県よりやや下回っている。しかしながら、「読むこと」については、調査A(知識)で、県平均を7ポイント以上下回り、調査B(活用)については、全国や県より8～10ポイント近く下回っている。

#### (2) 成果と課題

##### 話す・聞く

・目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す問題やスピーチメモのよさをとらえる問題は、全国・県平均を上回っているが、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す問題は、全国・県より5ポイント以上下回っている。実際のインタビュー活動等を通して、質問の仕方や自分の考えを書く指導を充実させる必要がある。

##### 書く

・目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題や目的や意図に応じ、引用して書く問題については、全国や県平均を5ポイント以上大きく上回っている。目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く問題は、全国・県より若干下回っており、目的意識をきちんと持たせた取材活動にしていく必要がある。

##### 読む

・俳句の情景を捉える問題は、全国・県平均を10ポイント以上下回っている。また登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題も全国・県平均を10ポイント以上下回っている。場面の情景や登場人物の心情など文中の言葉を根拠として自分の考えを書く等、授業改善が必要である。

##### 言語文化

・漢字の読み書きでは、書く・読む問題ともに、全国・県平均を上回っている。ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題では、全国・県平均より5ポイント以上下回っている。言語の意味理解を含めた言語活動を充実させると同時に、家庭学習の仕方も工夫・改善する必要がある。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 読み語り活動を毎週月曜日に設定し、目標冊数の設定や図書館祭りなどを行い、本に親しむ児童の育成を目指しています。本年度より朝のスキルタイム(木)で、読解力や言語力の向上に取り組んでいます。
- 日々の授業では、「授業づくりのステップ1・2・3」を使い、めあてをもって主体的に授業に取り組む児童の育成を目指しています。また、自分の考えを「伝え合う」授業を積極的に行い、理解する力や表現する力、コミュニケーション力の向上を目指しています。

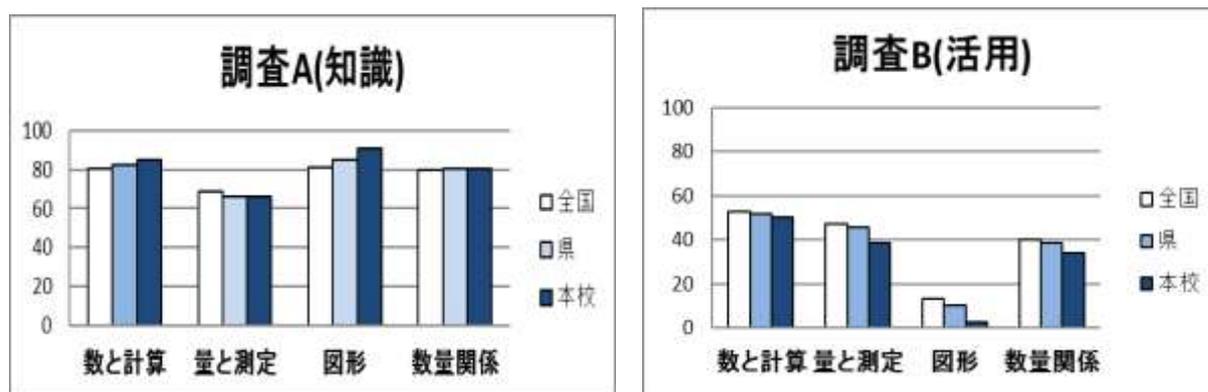
##### 【ご家庭では】

- 音読は、話の場面の様子や登場人物の気持ちの変化や著者が伝えたいことなどを考えながら読むことに挑戦させてください。読解力や語彙力の向上に役立つと思います。また、分からない言葉があれば、辞書を使って調べるなど「自学」にも積極的に取り組ませてみてはどうでしょうか。

## 2 算数

### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



基礎的な知識を問う調査Aでは、本校正答率は、全国や県平均を上回っている。領域別に見ると、「量と測定」が、ほぼ全国や県平均と同等である他は、「数と計算」が県平均・全国平均を2～4ポイント、「数量関係」が、県平均と同等で、全国平均より1ポイント程高くなっている。「図形領域」については、県平均を6.1ポイント、全国平均を9.8ポイント上回っている。反対に、活用を見る調査Bでは、全国平均や県平均を下回り、すべての領域別で下回っている。特に、「図形」は、県平均より7.9ポイント、全国平均より10.8ポイントと大きく下回る結果となった。

### (2) 成果と課題

#### 数と計算

・調査Aでは、 $5 \div 9$ の商を分数で表す問題が、県平均より4ポイント程低くなっているが、その他はよくできている。調査Bでは、2けたのひき算の答えをもとめることができるきまりを見つける問題が、県・全国より7ポイント以上低くなっており、無回答率も高くなっている。今後は、二つの数量の関係におけるきまりを児童自身が見つけていくような授業の手立てや工夫が必要である。

#### 量と測定

・調査Aの任意単位による測定についての理解の問題は、全国・県を上回っている。調査Bでは、仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方の問題が、全国・県の半分以下の正答率になっている。算数的活動やICTの利活用等、児童の意欲や関心を高める手立てが必要である。

#### 図形

・正五角形が5つの合同な二等辺三角形できていることや立方体の面と面の位置関係を理解する問題は、全国・県平均より大きく上回っている。調査Bでは、硬貨という身近な図形に置き換えて、数量関係を判断し、その理由を書く問題で、全国や県より5ポイント以上下回っている。今後は、立式した理由も記述させるなどの工夫を取り入れていく必要がある。

#### 数量関係

・調査Aでは、二次元表の合計欄に入る数を書く問題は、全国・県より10ポイント以上下回っていたものの、他の問題はよくできていた。調査Bでは、割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題が、全国・県平均より10ポイント以上下回っていた。筋道を立てて考える力を高める指導を充実させる必要がある。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 算数の基礎・基本の定着を主な目的とし、朝のスキルタイム(火)に取り組んでいます。計算問題を中心としたプリントを使ったり、5～6年生は「佐賀すくすくテスト」を活用したりしながら、基本的な計算力の確実な定着を目指しています。今年度は、月の第1・3週を計算等基礎・基本的な問題に、第2・4週を「活用力」の問題に取り組み、思考力の向上を目指します。
- 記述式問題の正答率が低いことを受け、授業では、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりする場をより多く設定したりすることで、児童同士が学び合う授業作りをし、思考力の向上に努めます。

#### 【ご家庭では】

- 家庭学習として担任より、計算ドリルや算数プリントが出されています。また、単元ごとにテストも行われています。お子さんが何を学習されているか、理解できているか、時々見てあげてください。家族の温かい見守りと励ましの言葉は、お子さんの成長に欠かすことができないもので、何よりの意欲付けになります。
- 算数で習った内容は、身近な生活に役立つものです。親子の会話の中にもどんどん取り入れていきましょう。ちょっと意識するだけで、算数好きになるきっかけができるはずです。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果

《生活習慣について・・「はい」「どちらかといえば はい」の割合》

調査項目	本校%	全国平均%
毎日同じくらいの時刻に起きている。	87.2	91.2
毎日おなじくらいの時刻に寝ている。	78.2	79.8
朝食を毎日食べていますか。	96.1	95.4
平日2時間以上テレビを見る。	62.9	55.7
平日2時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型)	29.5	31.1
平日読書を30分以上している。	30.8	36.5
平日読書はまったくしない。～10分未満	50.0	36.6

朝食については、全国平均より高い摂食率であった。反面、毎日の起床・就寝が全国平均よりやや低くなっている。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムの定着を目標とし、今後も継続して指導・啓蒙していくことが大切である。また、平日「テレビを2時間以上見ている」が、全国平均を大幅に上回っていることや「平日読書をまったくしない」割合が大幅に増えていることから、今後も、家庭学習の仕方など学校と家庭がさらに連携して取り組んでいく必要がある。

《家庭学習の様子・・「はい」「どちらかといえば はい」の割合》

調査項目	本校%	全国平均%
平日2時間以上勉強している。	23.1	27.1
平日1～2時間勉強している。	28.2	37.3
平日0～1時間勉強している。	41.1	32.7
家で学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	92.9	97.0
家で授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	37.4	43.3
家で授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	44.8	53.8

家庭での学習時間は、昨年度同様全国の状況と比べて短い。「平日2時間以上勉強している」の割合が昨年より改善している。今年度から小中連携で取り組んでいる「家庭学習がんばり週間」等、今後も継続して取り組み、家庭学習の習慣化を図っていきたい。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出しています。授業で学習した基本的な内容や必ず身に付けておきたい内容を課題として取り組ませています。現在、自主学習(自学)については、3～6年で学年に応じた内容で取り組んでいるところです。
- 学習規律の定着に力を注いでいます。今年度より、毎朝8時15分に全校一斉の「姿勢(立腰)タイム」取り入れ、授業の前後の「姿勢」にも意識するよう指導しています。学習用具等についての基本的な事柄等「開成っこ学びのスタイル」を全教室に掲示し、意識付けを図っています。学習規律の定着を目指し、落ち着きのある態度の定着を図ります。
- 教室の環境整備に努めています。掲示物など刺激になりやすいものは、整理して掲示するなど学習環境のユニバーサルデザインを進めていきます。また、1～6年生までの学習内容のポイントを掲示した「算数ルーム」を作り、子どもたちがいつでも見られるような環境づくりに取り組んでいます。

##### 【ご家庭では】

- 家庭学習の習慣をつけていきましょう。「家庭学習がんばり週間」等を利用して、宿題や予習や復習を含む自主的な学習、翌日の学習道具の準備などに自分から取り組めるようご家族の協力をお願いします。
- 家庭学習の時間にテレビやゲームなど音が出るものは、気が散って学習の妨げとなります。効果的な家庭学習には、家族の協力が必要となります。静かな環境で学習に取り組めるようご家族の協力をお願いします。